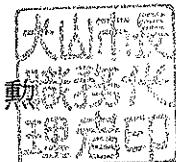




19犬都第13号
平成19年4月27日

国土交通省道路局長 殿

犬山市長職務代理者
犬山市副市長 長谷川



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について（回答）

平成19年4月2日付け国道企第114号の依頼については、下記のとおり回答します。

記

1. 道路特定財源について
 - ・地域の活性化のために道路が果たす役割は非常に大きいが、地方の道路整備はまだ不十分である。したがって道路特定財源制度については、引き続き継続していただきたい。
 - ・市町村が整備・管理を行う生活道路に対する住民ニーズが高いことから、道路特定財源の市町村への配分額を増額していただきたい。
2. 国道の整備について
 - ・国道は地域の骨格を形成するため、整備のスピードアップが求められていることから、旧1級国道（2けた国道）を重点的に整備していただきたい。
 - ・旧2級国道（3けた国道）については都道府県や市町村に整備、管理を任せることも検討していただきたい。
3. 国道41号の整備について
 - ・国道41号の小牧市村中交差点については、
 - ①南側は41号が6車線、名古屋高速道路が4車線の合わせて10車線あるのに対し、北側は国道41号が4車線であり、10車線から4車線に大幅に車線数が減少していること
 - ②また名古屋高速道路のランプが村中交差点の手前で国道41号に合流していること
 - ③さらに名神高速道路の小牧インターのランプも国道41号に合流していること
 - 以上のことから、国道41号の村中交差点付近は1日中渋滞が激しい状況となっているため、国道155号の立体化工事が進められているが、渋滞の激しい国道41号を立体化せず、国道155号を立体化しても効果はない。
 - ・村中交差点の渋滞を抜本的に解消するためには、地域高規格道路の名濃道路を早期に整備し、名古屋高速道路を村中交差点の北側に延伸することが必要である。
 - ・なお、名濃道路の整備には長期間を要することから、短期的な対策として、国道41号（小牧市村中交差点～犬山市）の現道幅員30mを活用し、歩道や中央分離帯の幅員を縮小することにより、現道幅員での6車線化の早期整備を図っていただきたい。

- ・国道41号（犬山市～可児市）については、通勤時間帯の渋滞が激しいため、周辺の県道や市道などの生活道路に迂回する車が多く、地域の安全が脅かされていることから、主要な交差点の立体化などを検討していただきたい。
4. 道路に関して無駄と感じることについて
- ・中央分離帯の植栽を廃止することにより、管理費の縮減、植栽管理時の車線通行規制の縮小を図る。
 - ・国道41号（大口町～扶桑町）の歩道設置工事については、必要性が低い。